

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 はっぴねす	代表者	本田誠四郎	法人・事業所の 特徴	その人らしく、住みなれた環境で出来るだけ長く生活を維持することを目的として、当法人ならではの介護と医療の両輪でスムーズな連携を活かした継続的かつ専門的な認知症ケアを提供している。また急変時や特変時・緊急時にも柔軟に対応しながら、ご利用者の状態変化に合わせてサービス提供内容の変更を常時行っていき、住み慣れた地域での生活を維持できるよう支援している。
事業所名	こころ庵尾道駅前	管理者	今川智恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	1人	1人	人	3人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	普段の生活や今までの生活の中で、興味があった事をどうケアの中に活かしていくかを考えていく。例えば草花が好きな方や運動が好きな方へのケア方法の検討をして、サービス中で実現可能な事は何かできるかを考えていく。	プランターにラベンダーを植えて、それを皆で毎日見て水やりなどをしながら育てていった。水やりをしながら会話が広がり、コミュニケーションがとれたり、回想療法的に昔の事を思い出しお話しができるようになった。発語の少ない方も発語を促す事もできている。	毎年これをされるのは、大変ですね。皆さんよく頑張られています。前回の改善計画が具体的に評価しやすかったが、今回は少し抽象的な表現もあり、わかりにくい部分もあるので、今回はここを注意してもらえるといいです。取組みはとてもいい事をされているのはよく分かりました。	少ない人数だからこそ出来る取り組みを考え、例えば現在皆さんで取り組まれているプランターでのお花作りに加え、ネギやレタスなど簡単に作れるものも育てていき、夕食に添えて食も楽しんでいただく。
B. 事業所のしつらえ・環境	環境面や立地面も色々と考えた上で必要な安全対策を考え、居心地のいい空間作りをご利用者と一緒に行っていく。	安全で安心して状態で過ごせる環境作りは大切にしている。空間作りもご利用者と一緒に、季節にあった壁飾り等を毎月テーマをかえ手作業を行っている。また静かで落ち着ける空間がとても心地よい環境となっているので、人の少なさをメリットとして穏やかに過ごせる場を提供していく。	事業所への入りやすさはビルという事もありなかなか難しいが、中に入ると居心地のいい空間にはなっている。いつも楽しくすごさせていただいているのが、入口の写真掲示でよくわかります。こんな素晴らしい景色を見ながら、過ごせるのは幸せです。	少人数ならではの落ち着ける空間がご利用者にとって休息の時間となっているので、個別プログラムを提供する方、ゆっくり休む方と自由な時間を提供していく。また体温調整が難しくなっている方々なので、温度設定や掛けものの調整を行い、室温調整には考慮していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方と自然と交流できるように今後も色々な行事にも参加し、お手伝いもさせていただきながら、事業所と地域の関わり方の幅を広げていく。	今年も商店街の様々な行事には全て参加させて頂き、出来る限りご利用者も一緒にお手伝いもさせて頂いた。恵まれた立地をフル活用して、無理なく自然と地域と交流する事ができている。	認知症に特化したサービスを提供されており、専門家も多く、認知症ケアがしっかりとしているので頼もしい。認知症カフェをこれからも継続して行かれ、更なる地域への認知度を高めて行ってほしい。	商店街という活力のある立地に恵まれた環境を活かし、地域行事・そのお手伝いにも積極的に参加し、これからも地域を盛り上げ地域と協力・共存できるようにしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	それぞれの地域の実情にあったかかわり方やご利用者を支えるご家族の実情も踏まえた上で、現実的なサービス提供を行いながら、地域での在宅生活を継続支援していく。	昔からの地域の行事やお祭りをとても大切にしている方も多いため、ずっと参加してもらえるよう支援している。またご自宅での生活が継続できるにはご家族のお力も大きな要素となるので現実に必要なサービスや支援を考え臨機応変に対応している。	ここは地域の相談窓口として知られている。地域の事は個人情報問題もあるので、一事業所が関わるのは難しいが、認知症カフェなどを継続していく事で、そういった役割を果たしていけるのではないかと。	地域に出向いて本人の暮らしを支えるという事は、地域での在宅生活を少しでも長く継続支援していく事として踏まえ、認知症からくる行動障害があっても安心して生活できるためのサービスを組み込んでいく。認知症＝施設入所ではなく、ご家族が仕事しながらでも介護ができる、安心して在宅で生活するための手段として小規模の多機能サービスを活かし柔軟な時間や内容のサービスで対応していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	サービスを利用されご利用者の良い変化を会議でお伝えし、認知症があってもできる事が沢山ありその人らしく生きていく事ができるよう、会議での皆さんのご意見も参考にしながら、ケアの質向上を行っていく	認知症になると要介護になるとその方の持っているお力と生き方を肯定して、笑顔で心地よく生活できるようにケアを提供している。会議での委員さんの気づきやご意見を参考にして、風通しのよい発想で新しい良いケアが考えられるよう皆で努力している。	介護は大変だと思う、まして自分の家族が要介護になったり、認知症になるとどうしていいかわからない。こちらでは認知症の方に専門的なケアをしていただき、こんないい所があったのかと思っている。会議での報告でも毎日色々な事をして頂き、充実したケアが受けられているのありがたい。認知症でお困りの方にもっと知っていただきたい施設です。	認知症が進行するという事は出来る事が減り、出来ない事が増えたという事ととらえない、また急にそうなった訳でもなく、少しずつ変化している。出来ないから出来るようにするのはではなく、日々の些細な事も記録していき現状の認知症レベルに合わせたケアを考えていく事業所としての取り組みを報告していき、皆さんにも伺いながら事業所のケアの取り組み方を考えていく。
F. 事業所の防災・災害対策	防災・災害が現実起こったからこそ分かった実体験での対応策を今後活かしていくよう手順書を整備し、いざという時に慌てない体制作りを行っていく。	経験したからこそその怖さや大変さがわかり、また助け合いの大切さも身に染みて分かった。法人内でも連携をとりながら、災害時には力を合わせて乗り越える事もできた。台風や大雨などの際も常にご利用者の安全を気かけながら、慎重に考える習慣がついてきている。	災害時はお互いに助け合う事ができればと思う。この地域では防災訓練は行っていないので参加できないが、事業所での防災訓練は継続されている。去年の豪雨災害のような事は今年はまだないが、本当に地域の助け合いで助かった人も沢山いらっしゃる。大変さと共に助け合いの感謝も知った	昔では考えられない規模の災害が各地でも起こっている中、事業所としてご利用者の安全確保を考え、避難先としての機能が活かせるように取り組んでいかなければならない。こころ庵はご家族支援が得られる方々が多いので、ご家族と協力して役割分担を行いながら災害時の支援を行っていく

